



世
事
百
談

隨
7
一

增 5
49
1



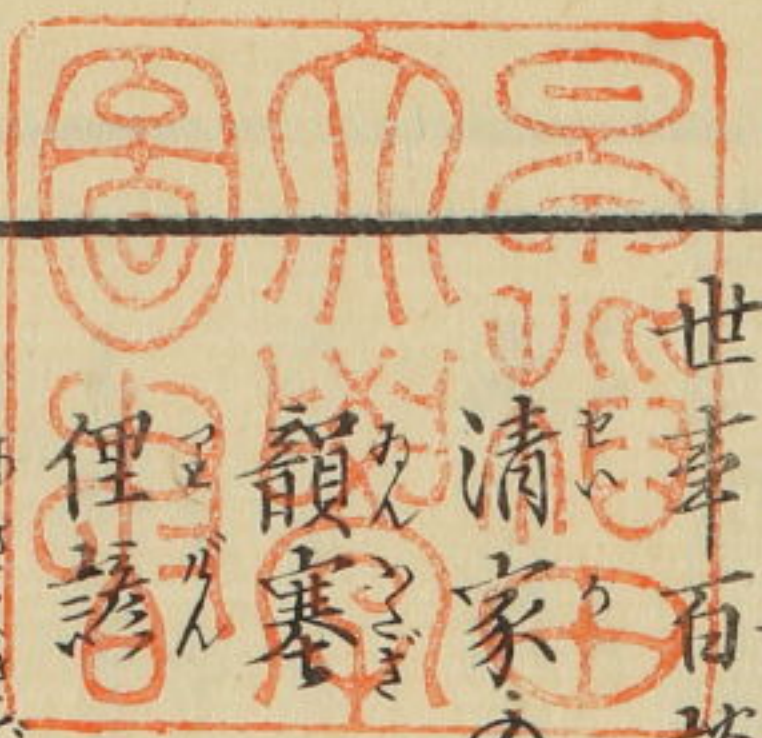
山崎美成大人隨筆

世事百談

全四冊

東都書肆 青雲堂英文藏梓

下谷御成道



世事百談卷之一 目錄

清家の訓 顔寒 俚語
 浅草寺觀世音 廿四孝 七賢人
 西方聖人 八百屋お七
 甲乙人 華甲重達
 天時巨候

平仄 漢和 俗語
 神事之舞 水滸傳の雜名
 日と春と多て孕子
 遊女惣角が世代
 男子化粧 嬰児の子あて
 梅雨

明治三十二年十一月五日
 坪内雄蔵氏寄贈

門僧 5
 跡 349
 卷 1



大風大水と知る

雪の竿

李公人出ろり

彼岸

純子の上下

黄金の壺

雨足風手 雲海

前序の賣物

志きせ

八朔白小袖

淨寺の種

世事百談卷之一

過一以つて此すきき小葎子ありて記したることを

のつらうとをうらやま子三善雜記と名づけしは、その存

も葎葎をさめぬとて、おのひ出るまゝ小書つけたるを

巻八にまたり奉る百條子とあらればやがて世事百談とハ

名法けぬ

清家此訓題

明經及清原家の訓題此論諸古刻本あり、その中先進

於礼樂野人也後進於礼樂君子也と訓するハ諸注釋の

意を異好し、されど、わくある釋義此より、何れと見ると

東坡が孔子後先進論ハ、清家の訓題の如きことを先



進後進を用ふるをさうあり、かくは漢家の讀法をさう授あり

平仄

四聲子平仄と云ふハ上下の平声を平と云ふ上去入を平仄
この中ハ宋の沈約始造四声謂上去入為仄声と古今韻
會子又云平仄の名宋子始云りさう平声ハ音韻此平あり
ゆゑ平と云ふ上去入ハづれも声の平ありぬとのみハ仄と云
あり仄ハ説文平側傾也と注し漢書此卷首あり古字の條
子仄古側字とありサウ上去入の声ハ側傾不平ありハ仄声と
ハ云あり

韻塞

中びりの遊あそびハ子韻塞みんぎと云ふ我れあり、これハ古人の詩此句を
書てる色いろづり此一字ひとと云ふと聲こゑと上あと下をと云ふ此下ある韻
字をありこれと抑おさありふりありありを勝かちとすをありと
つとと古代の及第此對策とてすこ古語の申まをと出でて上あと
を塞ふさてあり此又向むかとてありさうありさうあり出でる戲たの色
あり、源氏物語もさう、枕草紙もさう、新古今のくさる條あに
ありさうの明あきと云ふとあり、中勢集子協和の中言此ありさうの
あり山やれさうと云ふとあり、吟ぎん唐たうと云ふとあり、人ひとたがらん
唐たう字じありさうの似にと云ふとあり、吟ぎん高かう夜や話わ子こ、老らう杜と詩し云い身み輕けい、
過か文ぶん忠ちゆう公こう梅ばい聖せい、愈い初しよ得とく、一いつ奉ほう而に失しつ、過か字じ諸しよ、公こう續じよ、之し
田でん一いつ、香かう疾じつ、一いつ、香かう、疾じつ、一いつ、鳥ちよう去きよ及及び得とく、奉ほう乃の過か、字じ乃の知ち、一いつ

字之工才力有短長也と云ふ

漢和

浮和と云ふものの八連より出さるる此は詩歌あづかるべき
と云ふこれとの中の子言々々々古語集子と云ふては中
と云ふ一條善長公より浮のと妙り、善長公此息冬公此
信よりあづくと遠碧軒贈孝子と云ふ事あづくと百物語とい
ふ冊子も兼考と紹巴との百歌浮和と見傳り、ふおりのるき句
と云ふおのりの中子、

難奈謗殘書とのふ句と

抄風小飛紅あづと吹きまくと賜ひひら、

又懐紙の中子兼考、

沙濕履無聲とのふ句と

あのお夜此雨をあつたより雨くとあれは静り、るき

句と事ときと云ふと云ふ人、

俚語

商人の店をうらなふ所をあるとつら難あり、あづと云ふて平家
物語よと云ふ武義國此信人平山の武者所すと云ふ、す志考けと云
此山北東内より存知仕てと云ふ、あづと云ふ、此山北東内より
の者れらふと云ふて、西國の山北東内者志誠と云ふ、と云ふ、
す志考けと云ふて、あづと云ふ、あづと云ふ、あづと云ふ、
初代の花を、あづと云ふ、あづと云ふ、あづと云ふ、
要書を、剛の武者、あづと云ふ、あづと云ふ、あづと云ふ、

歲月としつきのころりやくこのちやきとたろく光陰ひかりかげ矢やの如ごとく
とち山谷詩集さんやうししゅう小日月こげつ過箭かせん疾はやとく句くあり出でるあざ
年の矢やといふことも同おなじころりたるをれれと千字文せんじぶん子年しねん矢やと
あは漏刻ろうこくれとあは自別おのづかあり、

僧そうをゆめてすりと木坊きぼうとく内典ないてん小似せうしとありとて
西教寺さいきょうじ駒山こまさんのころ成実論じやうじつろん云勤行いんぎやう故名ごうめい精進しやうじん乃至乃至如履にょりふ并羅へいら
新頭しんとう摩等まどう隨水ずいすい增長じやうざう懈怠けたい行者ぎやうじや如木にほ并へい後ご初しゆ成じやう来らい
日ひ減げん盡じんとあり、孔くわう世せ諺ぜんといふ不同おなじとく、
高野たかの六十ろくじゅう那智なち八十はちじゅうといふとハ男色おんないろのといはゆるよ世よ々々とさ
わら、これハ紙かみの一ひと枚まいれ取とり、高野紙たかのかみハ一ひと枚まい六十ろくじゅう枚まい那智なちの
紙かみハ一ひと枚まい六十ろくじゅう枚まいといふの言ことばありとくや、

目をとけて人を足あしを誘いざなふの目めたる目めは油あぶらの
ぬちといふとあり、この二鳥ふたどりハ目めは疾はやの也なり子こたるとて
この目めはひさしよハ六む伴ばん圍ゐ立た路ろ隨ずい草そう小せう世せの諺ぜん子この目めは
これ目めといふとあり、いふあともちかりひさしとあり、ハ硫りゅう
黄わう子この目めたる目めは上品じやうひんなり、是こゝは
昔むかしハハおとろさしよハいひゆるあはハ硫りゅう黄わう子この目めは
ちちこの三種さんしゆれ外がわあり、ひくらとあハ附つ木きかハ用もちは硫りゅう黄わう
ありとて、これハ硫りゅう黄わうの色いろは美みなり、彼あつちの目めは色いろは
似にたり也なり、

俗語しやくご
いぢめとて諷ふあり、これハ賣地ばいちの音ねを活か用ようしてつるあり、され

源抄子、をちかくハ、發服、蜂吹、發服、ハ、ラ、ツ、あり、若菜、子、奴
三宮、仍、終、あり、子、集、つ、つ、んと、を、ち、ふ、く、松、風、子、宿、同、子、奴
あり、めて、を、ち、ふ、ま、と、つ、を、と、あり、此、紫、明、子、蜂、吹、と、ふ、ハ、辨、ん
あり、是、ハ、澄、て、可、讀、と、思、ふ、存、の、音、あり、下、河、急、長、淵、の
山、家、比、ん、を、ま、め、る、

捨、る、身、ハ、虎、も、お、ま、れ、ぬ、お、く、山、子、移、世、の、う、き、ハ、蜂、が、ま、り、
あり、少、子、蜂、ハ、聲、り、の、れ、ま、ハ、人、の、お、ま、れ、て、を、づ、け、お、く、次、拂、り、
と、つ、つ、ん、の、お、ま、り、

浅草寺觀世音菩薩

大、江、戸、子、古、蹟、多、く、中、少、も、今、子、古、物、を、存、し、た、る、意、蹟、ハ、淺
草、寺、あり、鐘、汰、ハ、至、德、四、年、あり、且、境、内、小、西、佛、此、古、碑、あり

皇、每、年、六、月、十、五、日、の、祭、礼、小、用、少、古、面、子、ハ、元、久、三、年、此、年、号、
あり、奉、重、の、う、ら、此、お、げ、し、子、無、き、長、刀、ハ、靜、山、前、の、持、て、る、色
の、と、り、ハ、お、ま、握、系、景、耐、子、細、の、繪、馬、し、あり、古、書、子、ハ、西、夷、院
を、始、め、古、本、永、享、記、子、城、の、東、淺、子、ち、ハ、推、古、天、皇、御、宇、宣、居
二、年、子、建、立、の、不、仏、法、最、初、此、靈、場、あり、關、東、兵、亂、記、子、大
永、二、年、九、月、此、初、免、古、河、の、山、ハ、神、使、あり、此、使、者、ハ、富、水、之
郎、左、衛、門、尉、と、ぞ、聞、え、し、其、の、歸、り、子、富、水、武、藏、の、淺、子、ハ、參、詣、
し、る、小、その、日、觀、音、此、縁、日、子、十、日、の、事、あり、子、奉、り、あり
人、層、表、す、中、畧、淺、子、古、八、仁、王、廿、四、代、推、古、天、皇、の、山、時、定、居
二、城、年、建、立、也、奉、る、ハ、觀、音、關、東、最、初、此、伽、藍、靈、驗、を、雙、又、の
要、あり、權、之、の、卷、説、不、思、議、此、事、舊、記、子、載、る、亦、不、可、勝、計、

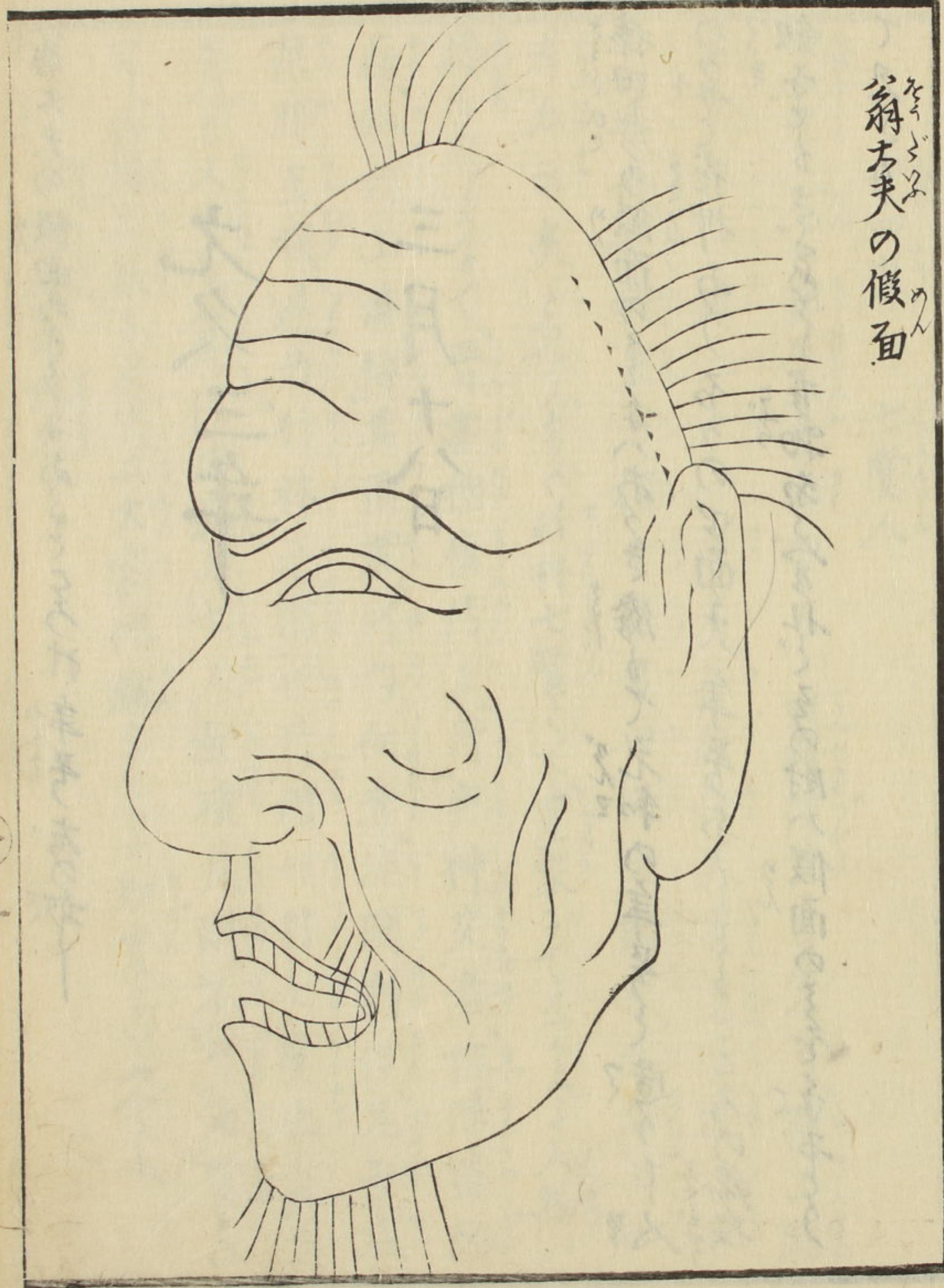
と云々、さてこの定居と云ふは古年号にて逸号年表子
載たれど、逸号年表子ハ古年水鏡、古代年号年代記、皇
代記、神明鏡、海東諸國紀などを引證して推古天皇十
九年を定居元年と云ふ、云々、今も不載、永享記、慶長
兵紀記の二書子ハ定居二成とある、よれば推古天皇廿五
年を元年とする、云々、逸号年表子ハ皇を引く、一説子傳ハ
了、又本号聖觀寺とありて、今も現子ハ此寺子あり、つ
人の拜をなす、とて、聖觀寺にてあり、傳子ハ、回國雜記子ハ十
一面觀世音と云ふ、たゞ、たゞハ、子やあん、あゝ人の回國雜記を
證として、淺草寺の佛を疑ふハ、謗子ハ、耳を信して目を疑ふ
といふ子、ひひ、非あり、

淺草寺神事舞

淺草寺子ハ一年の中子七十五度の神事あり、その中三月十
八日の田樂をとり、と六月十番此神事舞ハ古風を存して
そのく、れ子づりを觀る子、是れ、と子神事舞子用者
こころの古假面す、六つあり、その最、き、あ、の、と、翁
大夫といひ、元久の年、早、あ、里、次、子、三人、大夫と稱す、假
面三つあり、これハ三社権現あり、その、この外、猿田彦大
神、や、あ、ひ、福、女、の、假、面、あり、や、り、つ、子、この、福、女、ハ、細、女、命、あり
了、その、神、事、を、神、官、田、村、氏、の、職、掌、する、こ、ころ、あり、と、六
月、十、五、日、午、の、時、社、祭、五、人、この、假、面、を、ま、き、く、馬、上、子、て、二
王、門、を、入、り、く、本、堂、の、前、あり、舞、臺、北、西、の、方、あり、本、堂

のうろをまうりしころに神官配下の社家二人をたゞ
 二礼も二まのより分りて奉重をめぐり三社推現より
 祝詞をよみ拍板をゆりて六人舞臺子のあつて舞
 小の舞をうりて階をぐるり供所の内よりあけ信経院
 へ入り次子神官及び社家二人とこも子舞臺子のぼりその
 一人ハ幣と錫杖を手にとりあそび舞曲ありまゝに舞
 舞ありこの二段を翁大夫の舞とて久々の古假面を
 きり舞ありこの舞をうりて子三人ち夫れ舞あり
 毎年六月十四日登礼の前日田村氏より舞の擔古あり
 一又政甲申の年谷文二西原接はこも小田村氏もま
 て舞をもの古假面をもりてをうり

翁大夫の假面



翁方夫の假面のうら子あまるとる此年号の如し

元久三年

三月十八日

孫田彦の假面のうら子あまるとる此年号と造り一人
のうら子花押ありありの四面子八年号ありとるこの湯板
劔子とささあまるとる古物あり今此とるの時ハ假面のうら子
てんごり

廿四孝 七賢人

廿四孝公元の郭居業が作あり典籍便覧子云々、羅山随
筆云、俗所謂二十四孝者、嘉語怪異、寔非有道之者
所述也、昔程夫子謂十哲者、世俗之論也、余於廿四
孝云、矣とる、あまるとる竹林七賢とて畫家子てあまるとる人物ハ
授もたるとる、晋書嵇康傳、子所與神交者、惟陳留阮
籍、河内山濤、豫其流者、河内向秀、沛國劉伶、兄子咸、
琅邪王戎、遂為竹林之游、世所謂竹林七賢也とる、
これ又貝原篤信此論ハ七人放曠、荒醉不可為賢と
了、和清名數子及ハ二大家此論事と子知言とる、

水滸傳の譯名

水滸傳百人の體名をめそれ義を詳しせざるの多し
 里が後その説を約するところあり病関索揚雄宣如遺
 事子ハ賈関索小伝云く蜀北関羽の子子関索あれバそれ
 子抄ひよもさるる體名あり花棠う弓をよすまふふ小李廣
 とつ子同じく関索名三國志子見ゆるとあり池北偶
 談も名ハありて夷子ハその人ありと云語ありとお石以
 近く瓦北集を又く関索挿植巖歌あり萬仞
 危崖拔地起磴道盤空有遺墨土人相呼関索巖云
 是前將軍子曾後諸葛征南來丈八藏槍挿於此我
 護蜀志典可徵髯翁二子平与興此外不聞更誰某
 母乃荒誕味足憑然而滇黔萬里境到處俱有索名

嶺若果子虚号是公安得威声至今永畧年深世遠
 不銷蝕此豈得謂無其人嗚呼書生論古勿泥古未
 必傳聞皆伪史策真と云くハバ趙翼が史学子精き
 をりて関索をありとすさて賈関索の賈ハ似るといふとす
 俗語といふ林むき雁むきをのむきと云子同じきり葛
 魚詩詠子又云くあり病大史薛永母大史顧大嫂あり大
 史ハ虎の異名なり鳥山氏の水滸傳解子虎を大史といふ
 と云奉長沙景欽といふ佛書子出つと云くハ解甚あや
 ます虎を大史といふとハ巴小奉州綱目少もいづる搜神
 記子扶南范尋養虎於山有犯罪者投与虎不噬乃
 宥之故山名大史とあり搜神記ハ晋の葛洪撰り大

夷の名をいめてこふ見えり、これなりと北齊の時子諸州
の鎮兵を發す付此符子、銅虎符あり、それを北齊書子銅
獸符子、他少人、北齊書ハ唐の世小撰、こゝよりて唐の諱
を避て虎を獸子とせり、こゝよりてあり、これバ大畏といふもの
諱をささるより起れ、これなり、曰く云鳥山氏の解子長沙景
欽といふ佛書といふ、何ぞも昔ひりて、五燈會元子
長沙北景欽和尚勇悍あり、一人よびて、大畏と諱号
せりといふものあり、これを傳へ、説いたるもの、おのゝ再按子仏説
陀羅尼集經の畫毗俱知像法子、作曼荼羅結界於中
誦咒一切師子大畏禽獸水牛白象囉周朱囉水等
皆不能害とあり、是れ、こゝより、おのゝ兩頭蛇解珍、雙尾蝎解玄

といふ也、明の陳章侯が、解珍解玄も子各半子を
手子持り、弓を蛇小喻へ、弓箭を蝎子比し、こゝより、
名とす、早地忽律朱貴の忽律ハ、獅子の垂名あり、
解とす、こゝより、

西方聖人

文中子子、或問、仙子曰、聖人也、曰、其教何如、曰、西方
之教也、とあり、これ子よりて、世ハ西方聖人を佛のといふ、東
坡集、小、西方真人誰所見、註云、西方真、衣被七宝、後、双孩
厚後倪、おのゝ岳柯が程史子、余嘗得東坡所書、司馬温公
解禪偈、其精義深韞、真是以得儒教之同、特表其語
而出之、偈之言、文中子以佛為西方之聖人、信如

文中子之言則佛之心可知也、まゝ元の沙門祥邁が
辨偽録子史志經云孔子在魯老子在周以魯望周
之洛陽故在西方蓋指老子為西方聖人也、云辨曰
此夫子推佛為西方大聖人之語也、味厠老子在周
孔子在魯故指老子為西方聖人とありて、自注子康
琳法師對太宗之表張丞相作護法論皆引此文、仏
西方聖人也と云うはさてこの西方聖人と云ふは、
小いぞう、列子子ハた、西方聖人とのゝあり、佛を何をも
る子あり、文中子子とて始めて仏の稱せしあり、後世
異論あり、まゝ、貝原篤信の自撰集子、西方有聖人
辨あり、云世有一人之私言而後為天下後世之通論

人皆信之而不疑者、此迷衆之言不可不辨、坦齋通
篇曰、列子述孔子言曰、西方有聖人、佞私者以為指
釈氏而言、皆妄也、國語註曰、周詩誰將西歸、西方之
人謂周也、孔子果有此言、謂文王也、於、弘、典、何、有、篤
信、披、羅、泌、路、史、云、列、子、所、稱、西、方、之、聖、人、者、蓋、指
文王也、今、併、按、之、坦、齋、羅、泌、之、言、恐、可、為、得、之、矣、莊
子、讓、五、篇、云、曰、伯、夷、叔、齊、二、人、相、謂、曰、吾、聞、西、方、聖
人、似、有、道、者、試、往、觀、焉、分、明、是、指、文、王、蓋、周、在、西、方
故、文、王、為、西、伯、云、夫、仏、法、入、中、國、也、後、漢、明、帝、之、時、
孔子、未、可、知、佛、之、為、人、曷、得、有、其、談、論、乎、是、必、後、世
佞、佛、者、所、附、會、也、と、云、劉、氏、鴻、書、子、原、始、秘、書、を、引、て

辭大率同孔子孰為聖孔子亦稱葛天氏無懷氏為
西方聖人也其高之世封文王為西伯居于西方
曰西方聖人としり、まゝ西方聖人の一語を傳へし
日を吞むと多て孕

朝祥征伐記子載す豊左周の朝祥王へ賜りて返翰小
予當于托胎之時慈母多日輪入懷中とあり俗説と
自授前としり、此の子ありて授けし扶桑異記子天
台山沙門陽勝元是能登國人其父僧善迭俗姓紀
氏也母亦同多吞日光即有妊胎、まゝ註畫讚子蓮師
姓三國氏云母清原氏恒仰朝曦念誦多日光映曾
而振不唐土あもや似とあり、披神記子孫堅夫入

吳氏孕而多月入懷已生策及權在孕又多日入懷
以告堅曰妾昔懷策多月入懷今又多日何也堅曰
日月者陰陽之精極貴之象吾子孫其興乎とあり、豊
公のあまでもお、孫權も亦尋常此人あは、且陽勝日蓮
各僧後の傑出としり、

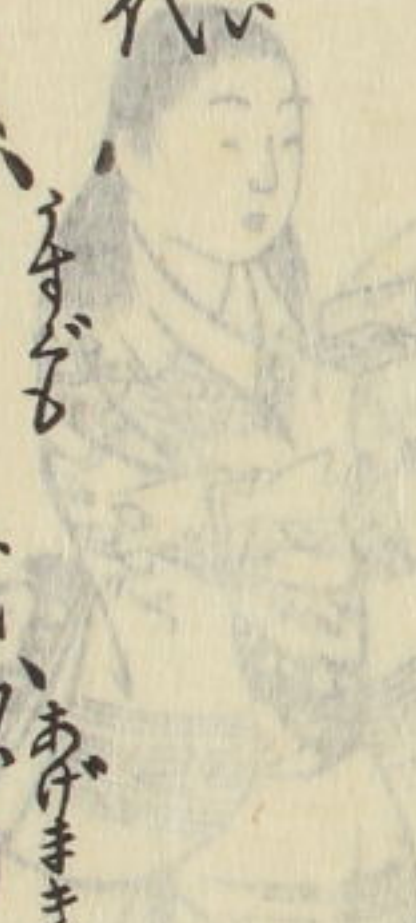
八百屋お七

世人の口碑子傳り、八百屋お七が事實ハ流布の書ハ江戸
若用集子見たり、それ中子、湯島の天満宮へ松竹梅
此額をあげて自書きて奉納したり、世に傳り、
の裏ハ谷中感應寺あり、祖師堂子常在、吳山法華
取矛一と云、額をあげて一歳の附書て、延宝四年辰春二

月と、蒸熟子年月をあらう、たを傳人、就一あり、さて罪をゆ
 一六十六歳の付、此をよみて、天和二年戊二月あり、美小も駒也
 吉祥寺あり、子世子ハソ、これハ実ハ小石川、指谷町あり、天
 台宗にて、南縁山園乗寺とあり、寺あり、おせが、法名ハ、林月妙
 采、天和二戊三、と石碑、子彫てあり、天和笑委集といふ、天和年百
 此江戸大町とあり、一書よみて十三卷あり、その書ハ、卷尾三
 卷子ハ、百屋おせが、事のこを詳しあり、たり、此書ハ、當時の記
 録あり、がさあ、く、事よせ、く、一、おせが、事ハ、や、く、浄、う、
 ち、傳りて、歌舞妓、担言、ち、せ、一、う、小、児、女、や、その、話、柄、と、あり、
 正、と、ご、あり、ぬ、平、り、幼、く、一、ハ、く、く、う、子、お、せ、が、と、と、ご、
 お、う、う、見、守、と、の、い、く、行、た、れ、く、見、童、の、口、す、さ、さ、も、の、唄、を

ま、お、さ、ま、と、あり、一、り、今、子、を、此、名、ら、う、あり、て、街、子、ハ、を、り、く、
 お、せ、が、や、う、う、を、を、ん、と、あり、ハ、の、や、う、う、の、い、ひ、系、と、よ、唄、乃
 濫、觴、を、押、り、う、ふ、う、き、山、唄、を、あり、所、一、松、の、葉、此、類、子、松、竹、梅、と
 云、冊、子、あり、その、中、子、載、る、涼、の、唄、此、文、句、子、ハ、百、屋、の、娘、お、せ、
 そ、恋、ち、の、や、ま、れ、く、く、う、小、す、れ、き、正、を、あ、ら、う、て、罪、ハ、死、が、い
 子、き、ハ、ま、り、く、と、ふ、と、見、え、う、く、れ、バ、二、存、を、や、り、て、傳、り

ま、け、た、ら、と、の、あ、ん
 遊、女、總、角、が、世、代
 世、の、口、す、さ、系、高、雄、七、代、落、世、三、代、總、角、一、代、と、い、ふ、と、あり、高、雄
 ハ、古、人、の、考、あり、く、世、代、ト、事、蹟、と、い、つ、唄、り、あり、按、ず、り、總、角
 一、代、子、ハ、あ、ら、う、西、巴、危、言、五年、享、保、十、子、三、浦、を、甲、申、左、馬、内、小





上巻の野矢
一ノ巻
二ノ巻
三ノ巻
四ノ巻
五ノ巻
六ノ巻
七ノ巻
八ノ巻
九ノ巻
十ノ巻
十一ノ巻
十二ノ巻
十三ノ巻
十四ノ巻
十五ノ巻
十六ノ巻
十七ノ巻
十八ノ巻
十九ノ巻
二十ノ巻



上巻の野矢
一ノ巻
二ノ巻
三ノ巻
四ノ巻
五ノ巻
六ノ巻
七ノ巻
八ノ巻
九ノ巻
十ノ巻
十一ノ巻
十二ノ巻
十三ノ巻
十四ノ巻
十五ノ巻
十六ノ巻
十七ノ巻
十八ノ巻
十九ノ巻
二十ノ巻

某國某郡軍團某隊

- 先鋒甲乙某
- 先鋒丙丁某
- 先鋒戊己某
- 先鋒庚辛某
- 先鋒壬癸某

これにて甲乙人のと明あり

男子化粧

男子化粧すことハ白河院の頃より始りしといひあるハ多
 羽院の御時子、猿袋東を強張りしとくさ猿袋東をあつてあら
 せしハ花園大長のまきを好まれし故仰せ合されし六、その時

より紅粉を粧ふことの始りしと云ふと、今按ずれば、さあぶくこと
 ありしと云ふハ、海人藻芥もそのと云ふことあり、神皇正統記
 にも、白河院にあらば、猿袋東もあらば、さあぶくことあり、男の
 眉ぬきもつけしとも、さういふことあり、おのづから、明月記素
 縁二年七月廿七日の條にも、成実直衣初のおふ、鉄付眉ゆりと
 いふことあり、さういふことあり、先子清少納言も、さあぶくことあり、顔のま
 ぬもあつて、白きおれぬきつらぬおハ、おとよ、悪き、雪のむ
 ら、消し、さういふことあり、さういふことあり、書たれハ、さあぶくことあり、賤き、舎人、さ
 白粉つけたりと、さういふことあり、類聚名考も、さういふことあり、

華甲重逢

六十一歳を本卦ぐりとして、生年比支干子あつて、生誕の日

やんざれど余りてふ五雜組子、保嬰論云、恙要小兒安
須帶三分鐵、此格言也、終身守之可也、
言くつへ、因婦人産後乳此、
ハ乳母をもて、
をひく、
乳をとり、
此ありひ、その製法、
す、
餅米の寒晒を、
子を、
水銘一匙、
此ありひ、その製法、
す、

の中へ入るあり、
るあり、
の二味、
へ、
して、
よく、
天時、
古語、
霞、
年、
一、

二日間、
古語、
霞、
年、
一、

子八筆をさるゝ心く又未時子さるゝ雨子八筆筆を脱くすも夜半
子晴る雨八日ありてさるゝ雨さるゝの如く明星地を照すも明日
雨々の兆あり朝子鳥あけハ雨々夕子鳴ハ晴を主る又朝夕
で鳴ハ風吹る兆あり鳥ハ泉流ハ井水も飲まハ雨ハあつて
さるゝわけてその滴を飲め故小雨んとすそ知りて飛鳴す
とさる 蜂蟻此群飛ハ凡のや兆ありおと春くどくおどく
動ハ雨の兆あり山を望むをく入雨ハ雨々晴天ハ喜くん
いりの如くこれハたへハ茶ん子ぬをたれさ中へ錢一枚をた
四五歩も退きてこれをたへハ錢見ゆあり是ハ水気さうて底子
る錢の足ゆみて浮く子あつて雨んとす付山のそく見ゆも
この水底に錢とおどく理あり

雨歇んとす付ハ茅屋の上子烟り透り升ふさうて天気
あり夏日の早天子曇りあり霧此葉子白く霧のくり
たる付ハさるゝ天晴る如く井のあけ濁るときハあつて雨
さるゝ言き木子風あて本のあつてをえす時ハ雲雨あり
大圃中をり葉て伏す付ハゆきらハ霖雨あり孤鳴と
きハ三りの中子雨あり
朝霧の空あり晴るときハ天氣より地よりちれて雲子収
るハ雨ありサるゝこれハ雲霧の雲子たちのお付ハ冷跡い
たるをさるゝ凝結て雨あり也名あり
赤とん不の北へ飛ゆくと少き年ハ雪多くとさるゝ年ハ雪
まハ雪兆ありさるゝ似たりおと杜筋のまねあり年ハ雪鳴て

志をくありとや、これハ豊兆あり、
 曆の下歴子田よりある日多き年ハ稻のこよりその外子
 ようととら、十有あふ何まり子でききてよりとよりと
 ハ九なるくああるとよりとせり、何事も十分ハああるとらふ戒
 ハ常にあつまきとおのつ、
 農を好みてよ誘子彼岸を節ハ考次節、土用三節、寒四節と
 いふとあり、これハ彼岸の節子入りよりその日天気よく、
 め土用三節の寒の入りハ四より天気よく晴れて寒候と順ふど
 やうなれハ豊年ありとて、その日此法傳を祈るとや、
 宋の孔平仲が談苑子江南民言、正旦晴萬物皆不成とら、こ
 れもたや一試むる子果してあり、

梅雨

梅雨の節小今を入梅といひ、あつと出梅といふ、芒種月の前此
 壬を入梅、小暑節の後乃登を出梅とする、本州細目子見え
 たり、あつれども時りて陰晴定まらぬ、時節のころちがきてあ入
 其の時ハ花菱の花咲きむと入梅、たぐく標のこふ花の
 咲終るを梅雨のあつとあつ、曆ハ美結子拘泥すことあまふ
 あつ、天時の花州子て節氣を知と、やとや、たや一試むる
 子たつめとあつとあつ、人とり、

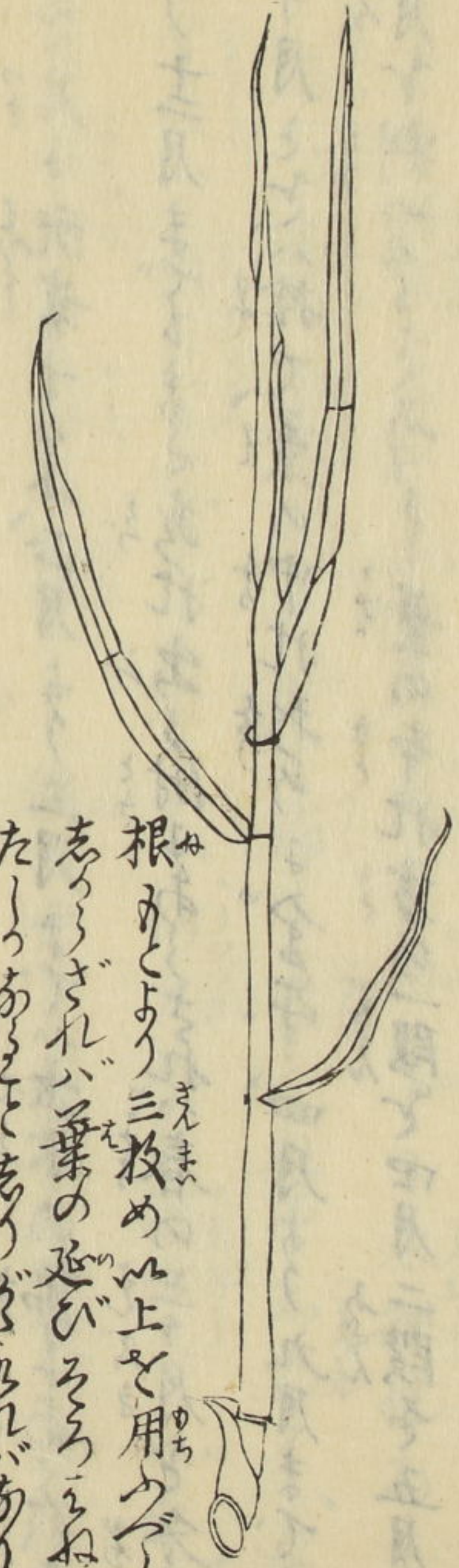
大風大水を知ると

知風草といふ州あり、あつをちり州を風州ともいふ、茅子似たり、
 そのあ、此有年をよそその歳大風のあつ、を知ら節つあれ

ハニ北年一夏大風吹クニツアルハニ夏少クニツアルハニ夏吹キ
アルハ春吹ク中ニアルハ夏吹キキキキキキキキキキキキキキキ
事記小見スル又蕪葎此ニ出ルヲ知リキキキキキキキキキキ
侯子ありて洪水とふまでふあぐん田布子水押しあると
あり然ルハ濠田河付をの田と作る人ハこれをもゆくとた
ハ今茲ハ水三合いんとおりま河付少く植出のいで今地
ありとも用ゆる水子達も箱のいりふあぐんなどのとあ
ろまで急てありさてその水れ出ると知リハ二月三月此
蕪葎の若むえの葉をとりて見ればニツ子園すうか如く葉子
をありて節ありこれあり此節一ツあり出水一夏ありあり
ニツありニ夏ニツありニ夏水出るとあぐん一夏の多き夏ハ

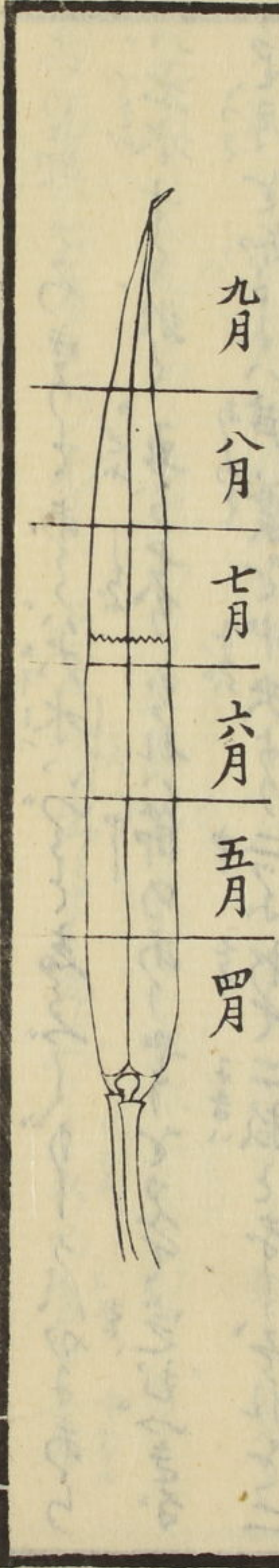
あの節をろきりとあぐん大水いづとあぐんかりうんあり
ハ出水すくれく五が七分それハ節のありやうを又て定むべき
夏月を知りハ芦葉を中央よりニツおて二枚とをりそれを二
枚のあぐん又ニツ子おて開きん色ハおめハ段子つくありさて二
れを月子配着するハ正月より三月までハ出水の節あり十月
より十二月までハあぐんあり此出ル時ありされハ春の三月月と冬ハ
三ヶ月とをハ捨て葉の中ハおめハ金平四月より九月までの六
ヶ月と割つらとあり葉の本ハ方の一夏と四月二夏を五月と
段子九月まで順子配着して其月子着きたるその節あり
某月出水とのをとを知り又その一ヶ月此中と上中下と十日づつ三ハ
割て見れば上旬の出水う下旬ハ出水うとふても明白に今とて

其驗教年たみ、足子聊もたふとれ、と小西米重が抄
 ぐりあり、され、此事をひろく傳へ、益あるとを九、今こま載て
 その圖を出せん、



根めより三枚め以上を用うべし
 志うされ、葉の延びるるをねば
 たしうあるとあり、ざらればあり

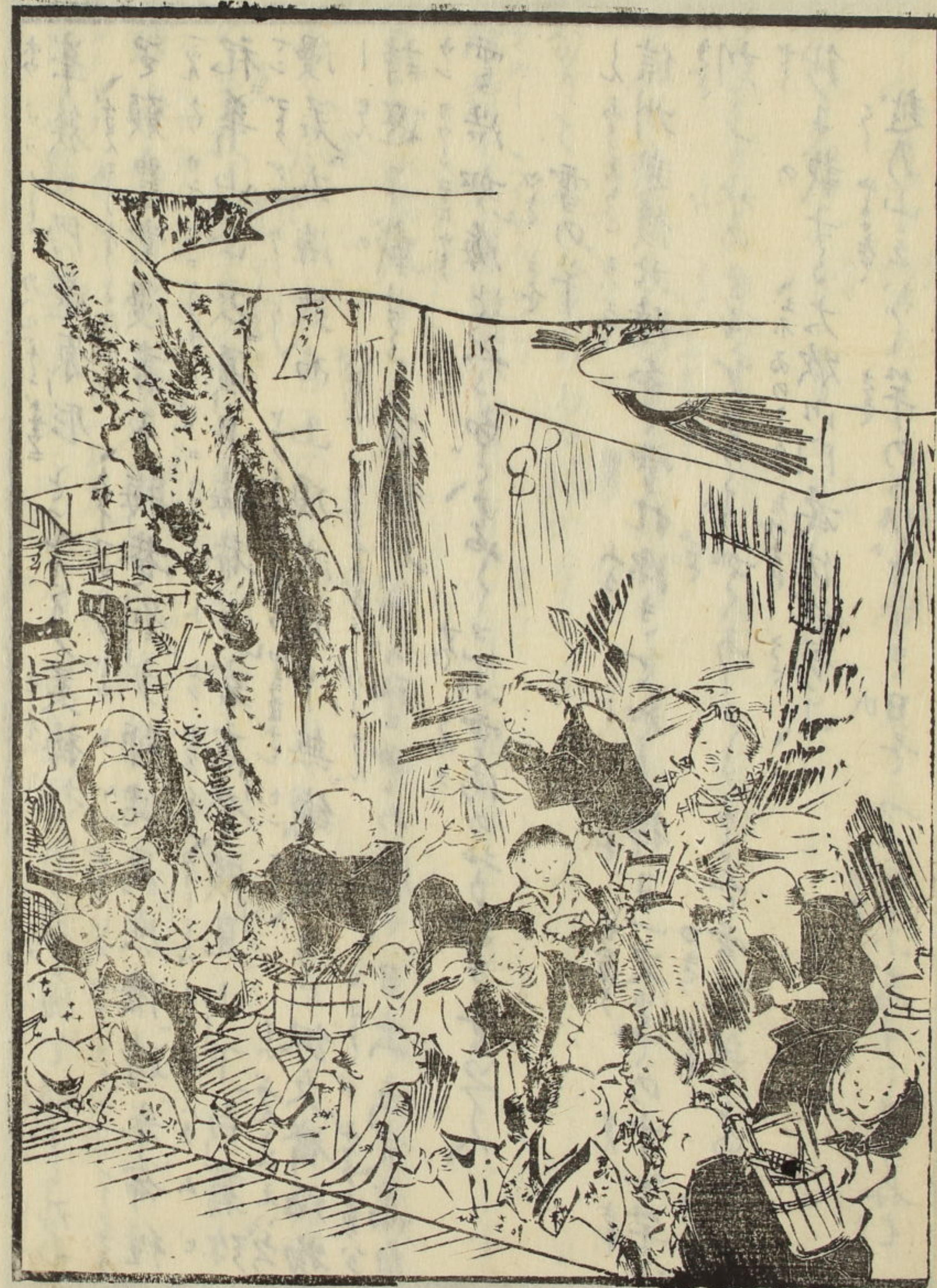
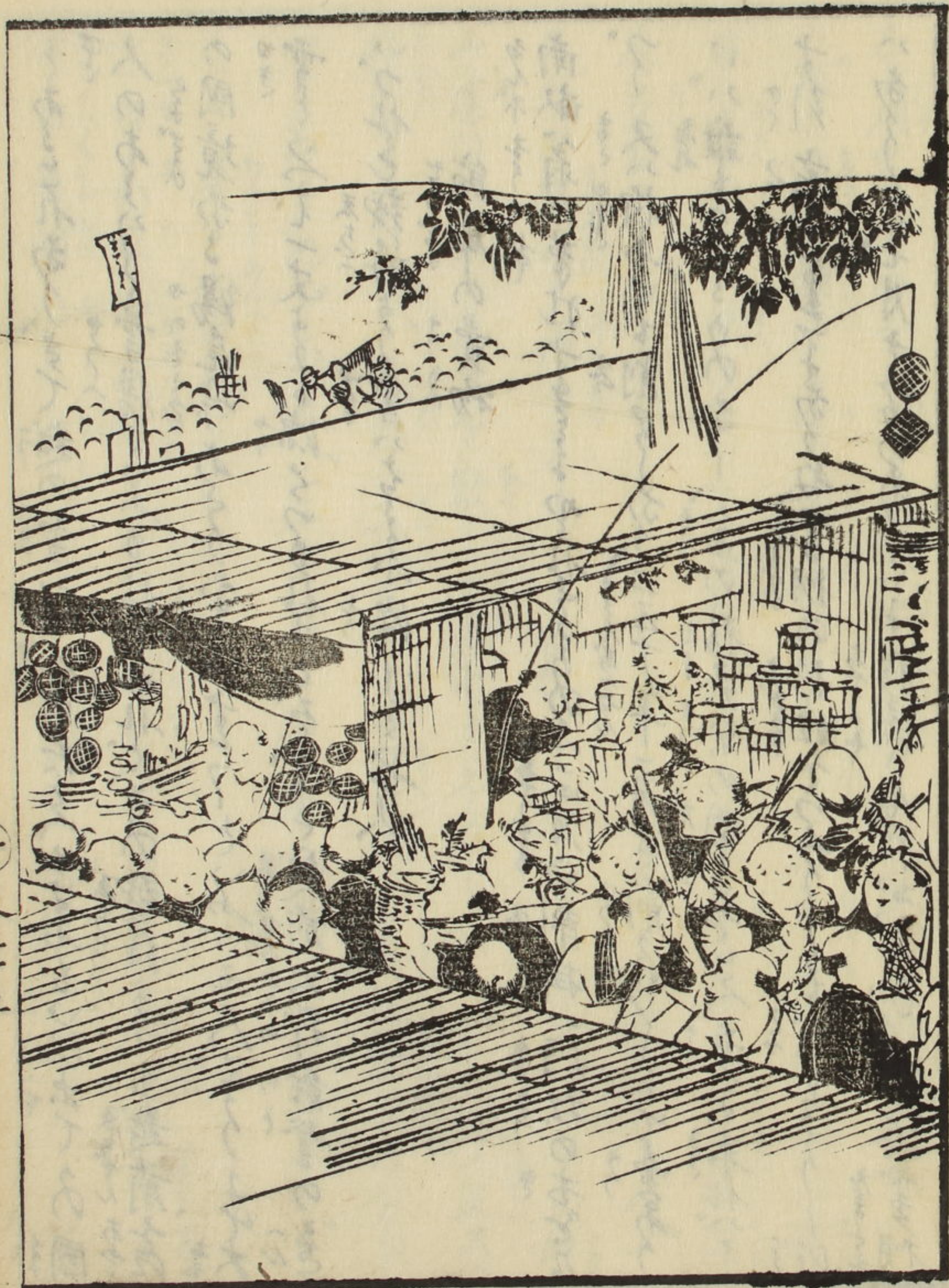
かゝのよく、順子よりつるあり



この圖は、如く四月より九月までと順子よりて、是れを節のありとこ
 ろよりて、某月出水とのふと、知るるあり、今の圖は、七月十日
 こゝれ出水あり、餘の月もこゝまふあざう、知るる、と種立手引
 草子より、

雨足風手 聖海

風より物と動する、と手あふとく、雨ハ一むらう、と足あり
 が如くして、風の多、雨は是と、いふとあり、雨の足ハ唐山あり、と小
 ろく、雨足とも、雨脚とも、晋の張景陽、雜詩、雪狼臨、控雨
 足、瀦、四、漢、又、三、醫、結、盤、雪、毒、散、雨、足、と、文、選、子、也、雨、稿、東、坡
 の詩、疎、雨、脚、長、を、も、と、う、わ、あ、あ、平、蕪、盛、集、小、君、を、抄、あり
 す、あ、ろ、ろ、を、や、さ、さ、く、ろ、ろ、と、く、雨、此、あ、ハ、の、六、晴、吟、日、記、子



とあるこれありきて越の雪ハ世人のたふさあもいひ出てみ國
人のあつりく番譜とよむれもあれど、その越存するも越前を
の國境なる湯尾峠あつりおどはすつといわが五尺より子で大
雪とよむ一丈より深くつれはつとぞ、まゝ越前大野能登のき
いづれを越好より雪ハをふ海ととる人

節席の賣物

南畝翁の著れすきまの四月の削掛ハ門松の本を
つゝ又ハ柳もつ削りあり、三二十年この削けくとして喜あり
けハ誰もらづものか、盆の精美祭の園子をす入、夢子来れは
す引家もあつりありぬ、雪棚の杉垣をつらうとも我らうり
ハありき、七月十六日のあり、こ子精美するれおびり、として雪相

を朋せりのをを買われ廿ハ後利子のきり、ゆき
ハ飯も汁も朝と子買わく食わ、五月に本手の猿お、ハ纏
を、漁ぐの紙でつらう、便も、ゆらう、今ハ、盆大鼓園
扇を鼓として紙を、ちり、ものを、子来、これ、や、ぬ、よ
ろ、れ、れ、物、も、價、さ、き、の、こ、あ、り、て、ゆ、き、ハ、す、れ、く、ら、耐
小逢ひて、残の、あ、き、を、勤、く、れ、し、わ、る、も、を、り、一、錢、の、あ、き、ハ、必、然、乃
程、あ、り、と、し、う、二、の、記、ハ、文、化、と、せ、の、以、前、が、金、杉、ハ、橋、居、の、を、り
ゆ、り、あ、り、れ、い、お、と、ハ、二、三、十、年、と、い、を、れ、ハ、明、和、の、以、前、が、

奉公人出り

近世武家編年略、寛文八年十一月十日、新有
御田舊例江戸士民之家入仕之奴僕、以二月二日

為放遣之期来年以後頃三月五日為期又安高
隨孝子江戸孝公人三月五日出代りの事、その前ハ二月二日
出代りし、明曆三年丁酉正月十日江戸大火事より、それ
年三月五日出代りす、きよ作とありて、夫より毎年三月五
日とありし、ありき、一子説いれり、正しく人むりり、物
小昔ハ家集家此出代り二月二十あり、寛文ハ申年より三
月五日ありし、されども今も趣存ありし、春の入
二月二十一統國子之れり、是のむり、名残あり、春の
名を併せ抄入、編年略此叙し、とす、再案す、小寛文
八年二月一日江戸大火あれ、安高の字れ、明曆大火ハ寛文乃

此事とあやまり傳へ、子あり、その二月大火あり、
その出代りを三月五日までのむり、たが、そのも通例とあり
あぶ、

あまきせ

召つひの者子時の衣服と給すをあまきせとす、文字ハ仕著
あまきせハ四季施をとり、書言字考より、古抄の曾我物
語子四季をとり、此小袖をたまひとのふとあり、これハ四季
施とくんと義におき、子とす、昔の居りし、他日藤球
の中山傳信録ハ春秋四季賜袍掛衫禪とす、そのあま
名あり、が、摺り、暨真東征傳ハ四季給時服とあり、
抄より四季施と書、施の字抄よりあり、四季著の約給あり

彼岸

彼岸のふかひり佛諸の到彼岸と云ふとあり、さうを晋平子
書くところ、春秋の時節の名目とあり、そのをさういひ
そのめん曆林同書集をえいめ、そのをたし、子謹按
そのを説くも、今、彼岸を農事の時節の助子の曆をさういひ
そのをせり、天所信景が鹽尻子、日本後紀、延暦二十五年
二月、官符、五歳七道諸國轉讀金剛般若經云、
宜使國分僧春秋二仲月別七日存心奉讀之云、
聖道天信景云春秋二仲月別七日、佛事蓋和信彼岸
會權興欲讀金剛般若經而起乎、然、延暦二十五年

春分

中日彼岸會之始也、と云ふ、その説、平く佛徒を
どが附會の説と懸隔せん、

八朔白小袖

今吉原ふくハ朔子ハ遊女の多あり、白山袖を著るをむりよ
まのあり、けり、その説、洞房語國吉原大ををど、子んえん、
や、瘡をさういひ、耐れをさひとも、又ハ夕霧が病年あが、
を迎へ、すがさとも、と、時侯、さういひ、小袖を著用す
るとハ遊女も俳優もをさひをさういひ、とす、ハ、あ、あれど
ハ朔子白きを用、さういひ、あ、その證ハ吉原礼家の
服色あり、その、宗五大草紙あり、古ハ八月朔、あ、
たると、と、あれハ、裕をさういひ、己、その、さういひ、
ハ遊女

類あり、仰慕すべし、

野の種

田國雜記子孫をいふに、武蔵國新座郡野寺村あり、

此種いふに、國にこれより土のまじりたるを

これとて、

昔より、

と云ふに、

此のあり、

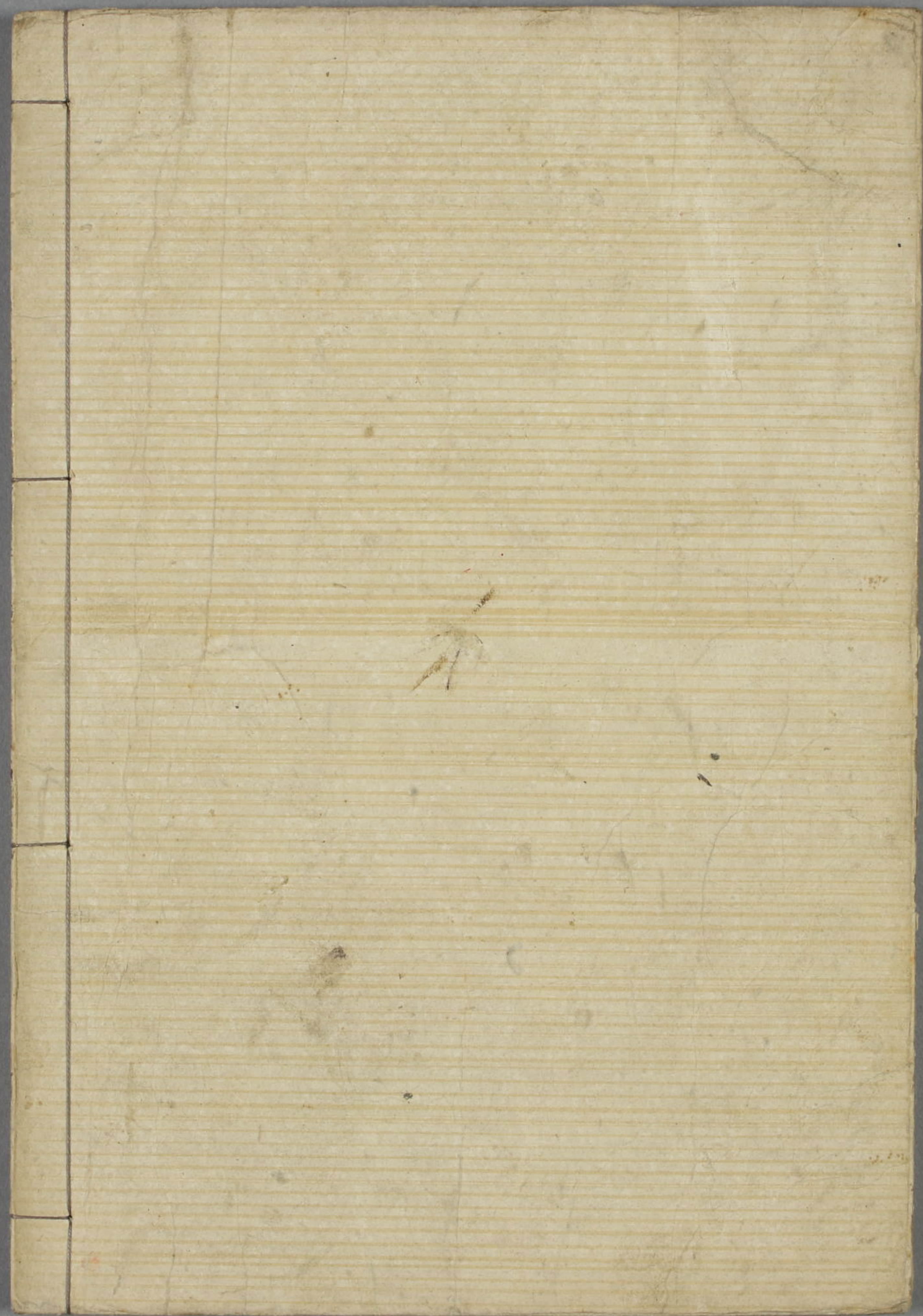
また、

も、

いふに、

堀たれ、鐘の龍頭あり、あて、
をあり、
ま、
たれ、
黄金の壺

河内、
壺の土、
又、
安永三年の七月、
壺を、
壺あり、



山崎羨成大人隨筆

世事百談

全四冊

東都書肆 下谷御成道 青雲堂英文藏梓